## 食中毒の原因となる細菌 \*特徴・原因・対策\*

	サルモネラ菌	黄色でドウ球菌	腸炎ビブリオ	ウェルシュ菌	セレウス菌
特徴。	鶏卵による食中毒が多く発生 乾燥に強く、熱に弱い。 潜伏時間:4~48時間 鶏卵を使用する料理 ・加熱工程のない食品 (生卵、自家製マヨネーズ) ・加熱工程が不十分であった場合(卵 焼き、オムレツ、親子丼)菌が食品中 に生き残り、長時間の室温放置で菌 が増殖し発生。	化膿の原因菌。 菌が食品内で増殖し毒素を産生。熱に強く、一度毒素がでると加熱しても防げない。 潜伏時間:食品摂取後約3時間(1~5時間) ・食品の長時間室温放置により毒素が産生。原因食品は弁当、おにぎりや和菓子、ケーキで多く発生	生の魚介類で発生。 塩分のあるところで増殖 (夏季は海水温度上昇のため多く検出)。 菌の増殖速度が速い。真水や熱、酸に弱い。 <b>潜伏時間:8~24時間</b> 生の魚介類の摂取または二次汚染された食品の摂取。 ・刺身や寿司(特に貝類)	大規模な集団食中毒事例が 多い。熱に強く、酸素のない ところで増殖。 毒素を産生する。 汚染源の多くは食肉。 潜伏時間:喫食後4~12時間 (平均10時間) カレーやシチュー、スー プ、煮物の肉を使った 調理品が原因。 仕出し弁当や前日に大量加 熱調理され、大きな器のま ま放置した食品。	土壌細菌であり、特に <mark>穀類</mark> で 検出される。 菌が増殖し毒素を産生。 熱に強い。 潜伏時間:30分~3時間 長時間放置された穀類を使っ た調理した食品。(チャーハン、 ピラフ、おにぎり、パスタ等)
対策	鶏卵、鶏肉の取り扱いに注意 ・新鮮なものを購入する ・必ず冷蔵庫に保管後、短期間に消費する ・卵の割り置き、ひび割れた卵を食べるのは避ける ・加熱は中心部まで十分にする ・卵、肉を触った手はその都度洗剤でよく洗う(器具、容器も)	毒素を作らせない ・調理前の手洗いの徹底 ・手に傷がある場合は食品を 直接触らない(手袋の着用) ・食品を長時間、室温に放置 しない ・出来上がった食品はなるべ く早く食べる	菌の増殖を防止する ・魚介類を調理前に真水の流水でよく洗う ・保存は冷蔵庫で行い室温に放置しない ・調理後はすみやかに食べる ・買い物の際はなるべく最後に購入し、低温に保った状態で早く帰宅し冷蔵庫にいれる	食品中での菌の増殖防止 ・底の深い鍋や大きい鍋で調理された食品を長時間放置しない ・室温放置は避け、調理したものは早く食べる。・保存する場合は、小分けにして急速に冷却と低温保存する。	食品中での菌の増殖防止 ・一度に大量の米飯や麺類を作り置きせず、必要量だけを調理する。 ・室温で保存しない ・保存する場合は小分けにして急速に放熱し冷蔵保存する。

	/ロウイルス	カンピロバクター	ボツリヌス菌	腸管出血性大腸菌	エルシニア	赤痢菌
特徵	てウイルスが原因で起こる 感染性胃腸炎を起こす。 抵抗力の弱い乳幼児や 高齢者は重症化しやすく、 長期免疫が成立しないため 何度もかかる 潜伏時間:24~48時間	に生息 熱に弱く、通常の加熱調 理で死滅するが鶏肉の間等 で適度に酸素濃度が低い (5~15%)ところで生 き残り、30~46℃で活	湖の泥の中など環境中に広く分布する嫌気性菌(=酸素がない環境で増える菌) <b>潜伏時間:8~36時間</b>	(多くは3~5日)	0〜4℃でも発育できる 低温細菌で、冷蔵庫内の 食品中でも <mark>増殖</mark> <b>潜伏時間:2〜5日間</b>	通性嫌気性桿菌(酸素がない状況でも生存できる 菌)で感染力が強く、少量の菌でも感染する 潜伏時間:1~3日間
	414#3 180 - 44 - 1	生や加熱不足の鶏肉料理調理中の取扱い不備による二次汚染	ビン詰、缶詰、容器包 装詰め食品、保存食品 (ビン詰、缶詰は特に自 家製のもの)に多い	食材 場管出血性大腸菌の食中毒発症者や健康保菌者の	で食肉 (特に豚肉)	赤痢菌に汚染された手指、 食品、食器、飲用水等を介 する経口感染 生水、氷、生ものは特に感 染リスクが高い(海外渡航 中に多い)
策	ウイルスが死滅する ・消毒でノロウイルスを拡 げない	・食肉処理用の調理器具や	120℃4 分間 (または	<ul><li>・調理する前に、せっけんで手を洗う</li><li>・野菜などの食材は流水でしっかり洗う</li></ul>	による調理器具等への二 次汚染を防ぐ 食肉の冷蔵庫内での長 期保存は避け、冷凍保 存をする 調理時は十分な加熱をす る	食品の取り扱いに注意 海外渡航時は生水や生もの等非加熱の食品を口にしない 帰国後の検便の実施 調理、飲食前の手洗い、調 理器具・食器等の消毒の徹 底 十分加熱をして、食品を提 供・喫食する